

大津・まもり隊

ご挨拶



寒さも日毎に増します今日この頃、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

ことし1年の世相を漢字ひと文字で表す「今年の漢字」が発表され、「密」の文字が選ばれました。新型コロナウイルスの感染拡大で「3密」という言葉が使われたことなどが理由にあげられており、来年こそは「密」に人と関わり合えるようにとの願いも込められています。情報通信技術の発達と相まって、インターネットを通じて人と交わる機会も増えてまいりましたが、これまで当たり前のように持っていた交流の機会がいかに大切なものであったのか、地域活動の中止や規模縮小などを通じて再認識いたしました。後援会活動におきましても、感染拡大防止を図るため、春に予定をしておりました市政報告会ならびに平成19年から継続してまいりました「まちなみ・まもり隊」をやむなく中止させていただきました。新型コロナウイルス感染拡大の収束が見えない中で新たな年を迎えることになりましたが、後援会の皆様との交流を一層深められる日が一日も早く訪れることを願ってやみません。

大津市役所においては4月に本庁舎内でクラスターが発生し、市民サービスに多大な影響を及ぼす事態となりました。12月1日付をもって感染症に係る業務継続計画（BCP）の全編改定が行われましたが、今後も市民生活に及ぼす影響は最小限に留めなくてはなりません。令和2年11月通常会議においては同計画の実効性を高めるため、さらなる精査を求めたところであり、指摘を踏まえて必要な修正が図られました。

大津市議会におきましても、政策検討会議での検討を経て大津市議会業務継続計画を改訂いたしました。委員として議論に加わりあらためて感じたことは、コロナ禍であっても、市議会が果たすべき使命に変わりはなく、議会に付与された権能をいかに発揮しなければならないということです。優先度のより高い事業に予算が充当され、迅速かつ効果的に執行されるよう、引き続き努めてまいります。

私は、「タニフェスト2019 議会機能フル稼働宣言!!」を公約に掲げ、議会における一般質問や委員会での指摘提言を通じて、その実現に取り組んでいます。このうち、防災拠点施設でありながら必要な耐震化が図られていない中消防署を含む本庁舎の早期再整備については、防災力・減災力の向上を図るうえで喫緊の課題であり、最重点課題として取り組んでまいりました。

当初、中消防署については、本庁舎に隣接する旧国有地に整備される予定でしたが、大津市が取得した時点で土砂災害警戒区域に指定されていたことから、同地での更新整備が見送られました。これを受け、平成29年9月通常会議においては、「必要な耐震化が図られていない庁舎の整備を実現するため、中消防署用地の早期選定を求める決議」が全議員賛成のもとで決議されるよう、提案者として各会派の意見を取りまとめ、加えて、4カ所6候補地が示された後においては、一級建築士としての知識と経験を踏まえ、それぞれの候補地を対象に問題点を指摘するなど、絞り込みを先導してまいりました。

令和2年9月通常会議において、びわこ競艇場駐車場用地の一部を滋賀県から分割取得するために必要となる測量費用が補正予算で措置されました。更新整備用地の絞り込みが実現したことを評価するものですが、当該用地は消防局内において最も評価が高かったにも関わらず、候補地には含まれていませんでした。平成30年11月通常会議において、この事実を公文書の開示手続きを経て明らかにいたしました。議会におけるチェック機能がいかに重要であるのか、中消防署の移転予定地決定に至るまでの過程を振り返り、あらためて実感をいたしました。

今号の後援会ニュースでは、「市議会だより」で取り上げた質疑・一般質問を振り返りながら「タニフェスト」に掲げたテーマの進捗についてご報告をさせていただいております。ご高覧賜ります様、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

大津市議会議員 谷 祐治

谷ゆうじ プロフィール

S48年 大津市生まれ。志賀小、唐崎中、石山高校 卒業
 H8年 近畿大学理工学部建築学科 卒業
 H12年 一級建築士 免許登録
 H15年～ NPO法人 滋賀県健康福祉会 理事長
 H18年 滋賀県景観審議会 委員（H21年まで）
 H19年 大津市議会議員に初当選（現在4期目）
 H24年 （一社）大津青年会議所 理事長（H25年まで）

H27年 マニフェスト大賞 優秀マニフェスト賞 受賞
 H28年 （公社）日本建築家協会近畿支部滋賀地域会長（R2年まで）
 H28年 （公社）日本建築士会連合会 まちづくり賞 受賞
 H29年～ 大津市議会・草津市議会連携推進会議 座長
 R元年～ びわこ東海道景観協議会 委員
 R2年 （公社）日本都市計画学会関西支部 関西まちづくり賞 受賞
所属学会 日本都市計画学会・日本景観学会・日本災害復興学会

タニフェスト2019 実現に向けた取り組み

定例会議ごとに発行される「市議会だより」では、主に選挙公約「タニフェスト2019」で掲げたテーマを掲載しています。(記事は同だよりより転載)
市議会本会議での指摘・提言内容については、谷ゆうじホームページ「指摘・提言の実績」でご覧いただけます。



【令和元年6月通常会議】

市民や職員の生命を守るため中消防署用地の早期選定を

問 当該用地を選定しなければ、災害対応拠点でありながら必要な耐震化が図られていない市役所本庁舎の整備も遅れる。大規模災害発生時の対応力に多大に影響することを踏まえ、早急に選定しなければならないが、方針は。

答 出動経路や関係法令上の課題がある候補地を除外し、財務省の別所合同宿舍敷地と市役所別館現地建て替えの2カ所2候補地に絞り込みを進める。また、消防局として一定評価しているびわこ競艇場駐車場敷地は、所管する県の意向を確認の上、庁内で検討し、新たな候補地となり得るか見極める。



その後の取り組み

- ▶ 令和元年11月通常会議においては、大津市議会において「必要な耐震化が図られていない庁舎の整備を実現するため、中消防署用地の早期選定を求める決議」が全会一致で決議されてから2年以上が経過したことを踏まえ、上記、2箇所2候補地並びにびわこ競艇場駐車場を対象に行われた検討経過について説明を求めました。
- ▶ 令和2年2月通常会議においては、びわこ競艇場駐車場を中消防署の移転候補地に含める上での課題認識と必要となる対応等について見解を求めました。

中消防署の移転予定地が決定 !!

令和2年9月補正予算において、滋賀県が所有するびわこ競艇場駐車場敷地の一部を取得するために必要となる用地測量委託費が措置されました。

【令和元年9月通常会議】

ユニバーサルデザインを基本としたまちづくりの推進を

問 公共施設バリアフリーチェック^(*)により得られた気づきを指針にまとめ、施設整備の際の参考となるよう広く公表するなど、ユニバーサルデザインを基本としたまちづくりの推進を。

答 現在市独自に作成中の「合理的配慮の提供事例集」へチェック結果を反映できるよう作業を進めるとともに、障害当事者の視点に立った意見を公共施設の整備に反映できるよう市障害者自立支援協議会の差別解消部会に意見を求めるなど効果的な仕組みを検討する。

* 公共施設バリアフリーチェック：障害当事者と共に移動などの障壁となる箇所を現地確認し、改良点や課題をソフト面の配慮で対応できる点を中心に検討するもの。

その後の取り組み

- ▶ 令和2年9月通常会議においては、今年度、終期を迎えるにも関わらず、取り組みが不十分であった大津市バリアフリー基本構想のさらなる推進と重点区域の拡充を求めました。

【令和元年11月通常会議】

湖都大津にふさわしい地域循環型社会の実現を

問 地域循環型社会の実現に向け、琵琶湖などに植生する水生外来生物の堆肥化を促進し、浄水過程で発生する土と混ぜ合わせた植栽用土壌として再利用し、市内の公園や学校などで有効活用することを提言するが、市の見解は。

答 現在、環境部局で水生外来生物の堆肥化実験を行っており、企業局では浄水発生土の再利用に取り組んでいる。これらを混ぜ合わせ植栽用土壌として有効活用することは有意義であり、今後、実験結果を基に環境省と協議の上、教材としての活用や地域住民への配布などを検討し、令和2年度には小中学校などとの連携を実現したい。



その後の取り組み

▶ 令和2年11月、大津市役所正面玄関前花壇及び陸上競技場前花壇にて、琵琶湖産の土を使った花の植栽が実施されました。琵琶湖の水草と浄水発生土という、共に不要物であったものをブレンドした植栽土壌であり、循環社会の実現に資する取り組みであるとあらためて実感しました。



活性炭で処理された浄水発生土

【令和2年2月通常会議】

園児や児童が使用する教材に含まれる化学物質の安全対策強化を

問 シックスクールの原因物質となるホルムアルデヒドなどの化学物質が、子どもの健やかな成長に影響を及ぼしてはならない。市は「子どものための化学物質対策ガイドライン」に物品を購入する際の注意事項を定めているが、校園が責任を持って安全性を確認できる、より具体的な指針を示すべきでは。

答 教育委員会と保健所で協議し、当該ガイドラインを改訂した上で、各校園に周知し、子どもへの安全対策を強化する。

【令和2年9月通常会議】

防災拠点でありながら耐震化が図られていない庁舎整備の加速を

問 市庁舎整備を検討する上で不確定要素となっていた中消防署移転用地の絞り込みが実現した。現時点で示されている整備パターンでは、本館については解体のほか、歴史的文化的価値を踏まえ免震改修を案に含めているが、庁舎整備の検討開始から16年が経過する中、今後どのように取り組むのか。

答 新型コロナによる影響も加味しながら、これまで検討のベースとしてきた整備パターンにとらわれず、庁舎規模や整備手法などを検討し、まずは庁舎整備の基本構想を策定する。

その後の取り組み

▶ 令和2年11月通常会議においては、令和3年度以降、こういったスケジュール、予算措置のもとで基本構想の策定に取り組んでいくつもりなのか、基本計画の策定に向けて想定する業務の範囲と新たな候補地選定に対する方針とあわせて見解を求めました。

今後のスケジュール

令和3年度………庁舎整備基本構想の策定
令和4年度以降…基本計画の策定に着手

基本構想の業務範囲

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、新たに見えてきた課題への対応など、庁舎に求められる機能等を検討し直すとともに、主に庁舎規模、立地条件、整備方針、今後の進め方などを検討、整理を行う。
- ▶ 新庁舎の立地については、建て替え等にとらわれることなく、候補地の選定基準等を定めて、その優劣を判断して評価をしていく。

【令和2年11月通常会議】

あんしん長寿相談所の組織運営体制の強化を

問 在宅療養者数の確実な増加が予測される中、在宅医療・介護の連携体制の強化は喫緊の課題である。あんしん長寿相談所（*）の職員体制の充実とセンター増設に向けた今後の展望は。

答 基幹型あんしん長寿相談所に専任保健師を所長として配置したほか、高齢者人口に応じた専門職の増員などの体制の充実を図った。今後、総合的に高齢者ニーズに対応できるよう関係部局と連携し、将来的に必要な人員配置や体制強化を検討するとともに、日常生活15圏域への整備を計画的に進める。

* あんしん長寿相談所…地域包括支援センターの本市における愛称。福祉・介護・保健などが一体となった高齢者の生活を支える相談機関。

この他、令和2年度通常会議においては、下記テーマなどについて質疑・一般質問を行いました。

- 令和2年6月
・PCR検査体制の充実に向けた大津市地域外来・検査センターの設置
- ・新型コロナウイルス対策を目的とした飛沫防止用シートの適切な設置
- ・小中学校校舎外壁改修工事に伴う教室の換気対策
- 令和2年11月
・大津市新型コロナウイルス等対策業務継続計画の実効性を高めるための取り組み（新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて令和2年12月全編改定）
- ・なぎさ公園周辺魅力向上プロジェクトのあり方

など



ご 挨拶

谷ゆうじ後援会 会長 今井 正人

50数年生きてきて、これほどの不安ともどかしさに襲われたのは初めてです。皆様も同じようなお気持ちではないでしょうか。新型コロナウイルス感染症の影響は全世界で未曾有の事態となっています。東京や大阪だけではなく、身近なところにも感染は広がっており、収束のめども立っていません。この状況を踏まえ、今年は後援会活動を中止させて頂いておりますこと、改めて会員の皆様にはご理解を賜りたく存じます。



今年の1月中旬に銀行のセミナーに参加しました。評論家石平（せきへい）さんの「中国経済の今後」と題した講演会でしたが、講演の冒頭で石平さんが新型コロナについて急遽お話しされ、「世界的に大変なことになる、リーマンショック以上の悲劇を招く」とお話しされました。理由は中国の武漢は大都市で交通の要所であり東西南北に交通網が発達している、これから旧正月を迎え中国人の大移動が始まる、中国政府は重く受け止めていないから対策が遅れている、などでした。この時私は「そこまでは……」と軽く聞き流していました。

行政もコロナ対策を講じておられます、感染防止対策、生活支援対策、事業者向けの給付金、GOTOキャンペーンなどの経済対策など多額の予算を投入して「何とかもちこたえよう」の姿勢が感じられます。我々の生活様式も大きく変わりました。マスクは必須で、会議や研修会もWEBによる通信で、買物や申し込みや何かの申請もスマホやパソコンを使う機会が増えました。最近特に思います、「人と人が直接触れ合わなくても、何とかできるものだ」しかしこれで良いのか？もどかしさを感じるのは昭和生まれだからでしょうか？

後援会の旅行や市政報告会で皆様のお顔を拜見できないのが寂しく思います。やはり、人と人が顔を合わせ語り合い、触れ合う事で人間本来の愛情や信頼が生まれてくると切に思います。皆様と語り合い、触れ合うことの出来る後援会活動が再開できることを願っております。

皆様に朗報です。この度、「第22回 関西まちづくり大賞」を受賞されました。谷議員、びわこ大津草津景観推進協議会、公益社団法人滋賀県建築士会の三者共同による活動が評価されたとのこと。何の活動か？ もちろん谷議員が長きに渡り取り組んでおられる「近江八景と東海道でつながる大津市と草津市の広域景観連携」で第10回マニフェスト大賞を受賞されたテーマでもあります、10年近くなる地道な活動があつてこそこの評価だと思います。谷議員、おめでとうございます、今後もさらなる活動を続けて行かれることを期待しております。

第22回 関西まちづくり賞 受賞

近江八景と東海道でつながる大津市と草津市の広域景観連携の取り組みを評価いただき、びわこ大津草津景観推進協議会（大津市・草津市）、公益社団法人滋賀県建築士会（同大津地区委員会・湖南地区委員会）との三者連名にて、公益社団法人日本都市計画学会関西支部が主催する第22回「関西まちづくり賞」を受賞いたしました。（表彰式：令和2年12月5日 関西大学 梅田キャンパスにて開催）

現在、びわこ東海道景観協議会（景観法に基づき設置）においては、両市が共有する景観基本計画案の作成が進められており、今年度末にはびわこ大津草津景観推進協議会（地方自治法に基づき設置）において、計画決定される予定となっています。審査講評においては、両協議会を合わせて設置していることを大変高く評価いただきました。

平成25年に調印された「びわこ大津草津景観宣言」のさらなる実現が図られるよう、この度の受賞を糧として、今後も精一杯努めてまいります。

